

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果
<p>本年で4回目となる「あこがれ」は自身の研鑽発表としての場だけでなく、呉市での声楽文化の振興、また将来的には呉市でのオペラ上演を目標として始めました。毎回テーマを定め、東京からゲストを招き、より質の高いものを提供できるよう趣向を凝らしてきました。第1回は自身の軌跡を辿り、第2回はオペラ「ラ・ボエーム」のハイライト公演、第3回は言葉に注目し、呉市出身の作曲家藤井清水の作品演奏とオリジナル字幕によるオペラ重唱を演奏しました。今回は2度目となるオペラハイライトとしてイタリアの作曲家ドニゼッティの「愛の妙薬」を取り上げました。第3回に好評をいただいた字幕をさらに発展させ、今回は文字だけでなく、写真やイラストを入れ、さらに登場人物によって言葉を使い分け方言を取り入れました。上演地ならでの試みは好評で、オペラを観たことがなかったという方にも楽しめたという感想をいただきました。また、このオペラはお酒が重要な役割を果たすので、地元の酒造会社に協賛をお願いし、今回のコンサートの小道具用に特別ラベルを用意していただきました。これもお客様には好評で、お話をより身近に感じていただくことができました。貴財団からの助成をいただくこととなり、今回は衣装や舞台、照明などをこれまで以上に充実させることができ、これはコンサートを成功させる大きな決め手となりました。改めまして、今回の助成に心より感謝申し上げます。</p>
(2) 今後の課題
<p>まずは自身の演奏技術の向上です。これを無くして継続的なコンサート開催はないと思っています。また、毎回実施するアンケートに見られるお客様の意見、提案や要望を、いかに実現化していくかということも企画運営をしていく上での課題と思っています。そして今まで以上に力を入れて取り組んでいきたいのはコンサートの告知、集客についてです。これまでの開催で毎回来てくださる方、また新たに来てくださる方など様々ですが、今後も新しい観客獲得のため、積極的にPR活動を行い、新しいアイデアなどを検討していきたいと考えています。オペラには、歌手だけでなく、指揮者、演出家、オーケストラや舞台スタッフなど本当に多くの人の力が必要となります。将来のオペラ上演の実現に向け、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。そして様々な分野の方々にご賛同とご協力を頂けるよう、今後も積極的に課題を明確化していきたいと考えています。オペラの魅力を呉の皆様へ伝えることを念頭に、そのために必要なことを積み重ねていきたいです。</p>

II. 支出報告 (使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい)

費用	金額 (円)	摘要
(1) 会場費	238,300	会場使用料
	130,220	器具使用料
(2) 印刷製本費	11,294	チラシ印刷代
	22,572	プログラム印刷代
	4,777	チケット印刷代
(3) 旅費交通費	26,680	交通費 (共済有)
	79,200	交通費 宿泊費 (共済有)
(4) 謝金		
(5) その他	32,400	照明スタッフ代
	21,600	ピアノ調律代
合計	567,043	

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。



終演後、出演者で撮影



本番前、舞台上にて



終演後のお見送り①



終演後のお見送り②



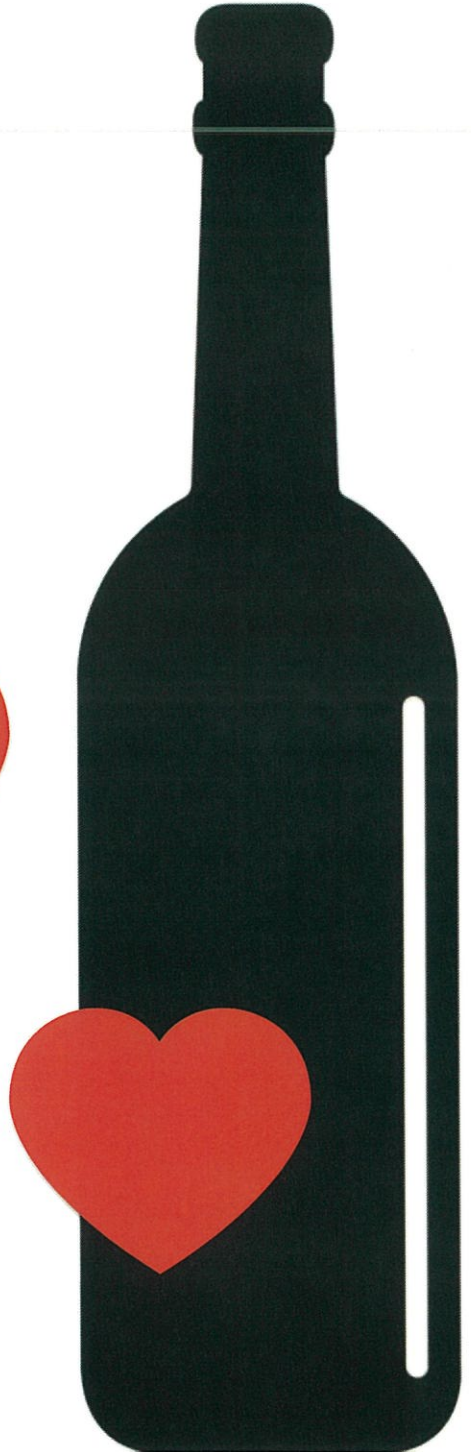
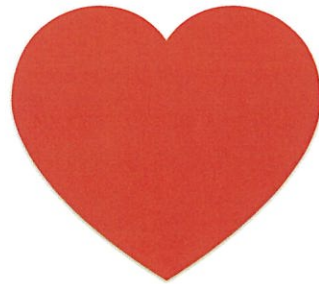
協賛企業の記念ラベル



Sawahara Takamasa Tenor Recital

# あこがれ Vol.4

オペラ「愛の妙薬」ハイライト公演



2019年8月31日（土）

18：30開演（18：00開場）

くれ絆ホール

主催：あこがれ実行委員会

助成：公益財団法人光山文化財団

後援：東京藝術大学同声会広島県支部、九嶺宮原同窓会、中国新聞社、広島エフエム放送

呉市音楽家協会、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、FMちゅーピー

# ご挨拶

本日は、澤原行正テノールリサイタル あこがれVol.4 にご来場頂き、誠にありがとうございます。2016年にスタートしました「あこがれ」も今年で4回目となりました。毎回たくさんのお客様に足をお運び頂き、出演者一同、心より感謝しております。「呉でオペラを！」という想いの元、今後も微力ながら継続していきたいと思っております。

今回は第2回に続きオペラのハイライトを上演します。イタリアの作曲家ドニゼッティの「愛の妙薬」。親しみやすいストーリーで、音楽もお話もとても明るいオペラです。今回も東京より素晴らしい共演者に来呉いただきました。

この「あこがれ」は私一人ではとても開催には至らず、多くの方々のご協力を得て今日を迎えました。また、今回よりこのコンサートへの個人協賛、プログラム広告の募集を開始し、これもまた、多くの方々にご協力を賜りました。この場を借りまして、関係者の皆さま、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

オペラを呉の街で上演する、この目標に向け、これからも活動していきたいと思っております。今日は皆様に笑顔になっていただけますよう、心をこめて歌いたいと思っております。どうぞお楽しみください！

澤原行正

# プログラム

## 第1部

レクチャー

オペラ「愛の妙薬」を楽しもう！

～休憩～

## 第2部

ドニゼッティ作曲

Gaetano Donizetti

オペラ「愛の妙薬」ハイライト  
“L’elisir d’amore”

全2幕（途中休憩あり）

ネモリーノ：澤原 行正

アディーナ：嘉目 真木子

ベルコーレ：大川 博

ピアノ&語り：高橋 健介

# オペラ「愛の妙薬」について

## ● いつできた作品？

➔ 1832年にイタリアで作られた歌劇（オペラ）です！

この頃の日本は...シーボルト事件（1828）

天保の大飢饉（1833）、大塩平八郎の乱（1837）など。

日本史...覚えてますか？笑

## ● オペラって？

➔ 演劇と音楽によって造られる舞台芸術のことをいいます！

セリフや歌で物語が進行することが大きな特徴で、独唱、合唱、管弦楽など様々な要素により創り上げられる「総合芸術」とよばれます！

皆さんご存知のミュージカルはオペラから派生したという説も！？

## ● どんなお話？（ここから長いです...）

➔ 舞台となるのは19世紀のスペイン、バスク地方にあるとある村（今回は21世紀の日本、広島県は呉市でのお話です。笑）

村の青年、ネモリーノ（澤原）は、村一番の器量良しアディーナ（嘉目）に恋い焦がれています。毎日のように彼女に想いを伝えますが、全く相手にされません。どうしたものか...悩むネモリーノに突如ライバルが現れます。駐屯部隊の隊長ベルコーレ（大川）です。彼はアディーナに一目惚れ、彼女に結婚をと迫ります。ベルコーレに負けたくない！...でも、あいつに勝てるものは...。焦るネモリーノに救世主！？が現れます。

彼の名前はドゥルカマーラ。“自称”世界に誇る天才医師！彼は「どんな病、老いや悩み！なんでも治ってしまう！」という奇跡の薬を売っています。本当にそんな薬が...？いえいえ、そんな効力はありません。あちこちの村を回ってはインチキ薬を売りさばいている人なんです。そう、〇〇詐欺的な。。

ネモリーノは思い出します。アディーナが読んでいた「トリスタンとイゾルデ」というお話を。なんでも“惚れ薬”が存在するという。もちろん、これは空想のお話ですが、ネモリーノはホントの話だと思ってます。彼、天然なんです。

奇跡の薬、持っているならこの人では！？っとドゥルカマーラに持っているお金全てを払い、薬を売ってもらいます。そんな薬、あるわけないだろといいつつ、奇跡の薬を差し出します。これ...実はお酒（※銘柄に注目）。この薬は効果が出るまで1日かかるとのこと。もちろん、これはドゥルカマーラが次の村へ逃げるための時間稼ぎ。そうとは知らないネモリーノは早速薬を飲みます。なんだか体が熱くなる感覚...これは薬の効果に違いはない！明日になれば彼女は僕を愛してくれる！ネモリーノは確信します。そんな彼の前に再びアディーナが現れます。熱くなる体に自信がみなぎるネモリーノ。いつもより強気です。いつもと様子の違う彼に戸惑うアディーナ。ちょっと気に入らないけど、彼のことが気になります。「私のこと気になるんじゃないの？」「君が諦めるといったから実践してるのさ！」...喧嘩するほど仲がいい。そんな会話にさえ見えてきます。さあここで話をややこしくするベルコーレが登場！再びアディーナに求婚します。

なんとアディーナ、この求婚に応じてしまいます！「6日後に結婚しましょう！」

ネモリーノは勝利を確信しました。彼にとっては明日になればそんな話はなかったことになるのですから。求婚に応じたにも関わらず余裕の表情でいるネモリーノ。そこに知らせが入ります。“駐屯部隊はただちに別の村に行くべし”と。

「君と別れなければ。でも君との結婚は諦められない」「それなら...今日中に結婚しましょう！」急展開に絶望のネモリーノ。なんとか結婚を明日まで待ってと頼みますが、聞き入れられません。

場所は変わって結婚式。村中お祝いムードですが、その中にネモリーノがいないことが気になるアディーナ。彼の目の前でサインしないと結婚の意味がない！と思ったアディーナはベルコーレとの結婚契約書へのサインを夜まで待って欲しいと言います。



「女はわからないものだ...」首をかしげるかるベルコーレの元に肩を落とすネモリーノがやってきます。ドゥルカマーラになんとかして欲しいと相談したところさらに効果が強いという薬を勧められます。しかし、既にお金を使い果たしたネモリーノ。薬を買うことができないのです。そんなネモリーノにベルコーレはある提案をします。「お前、軍隊に入隊しないか。そうすれば即金で20スクードが手に入るぞ」

20スクード。現在の日本円にしてみると...40~50万円にあたるそうです。こんな大金があれば薬を買うことができる。しかし、アディーナとは離れ離れ。さらに危険な土地に行くことになります。ネモリーノは悩みます。一方ベルコーレは恋のライバルを自分の手下にすると意気揚々。ネモリーノはアディーナへの愛を選び、軍隊への入隊を決意します。早速薬を買いに走ります。

この時、村にある知らせが入ります。ネモリーノの伯父さんが亡くなったと...。この伯父さん、ずっと調子が悪かったのですが...なんと大金持ち。そしてその遺産全てがネモリーノに入るとのこと。ネモリーノ本人はまだ知りませんが、これまで彼を全く相手にしなかった村の女性たちは急にネモリーノに優しく迫ってきます。

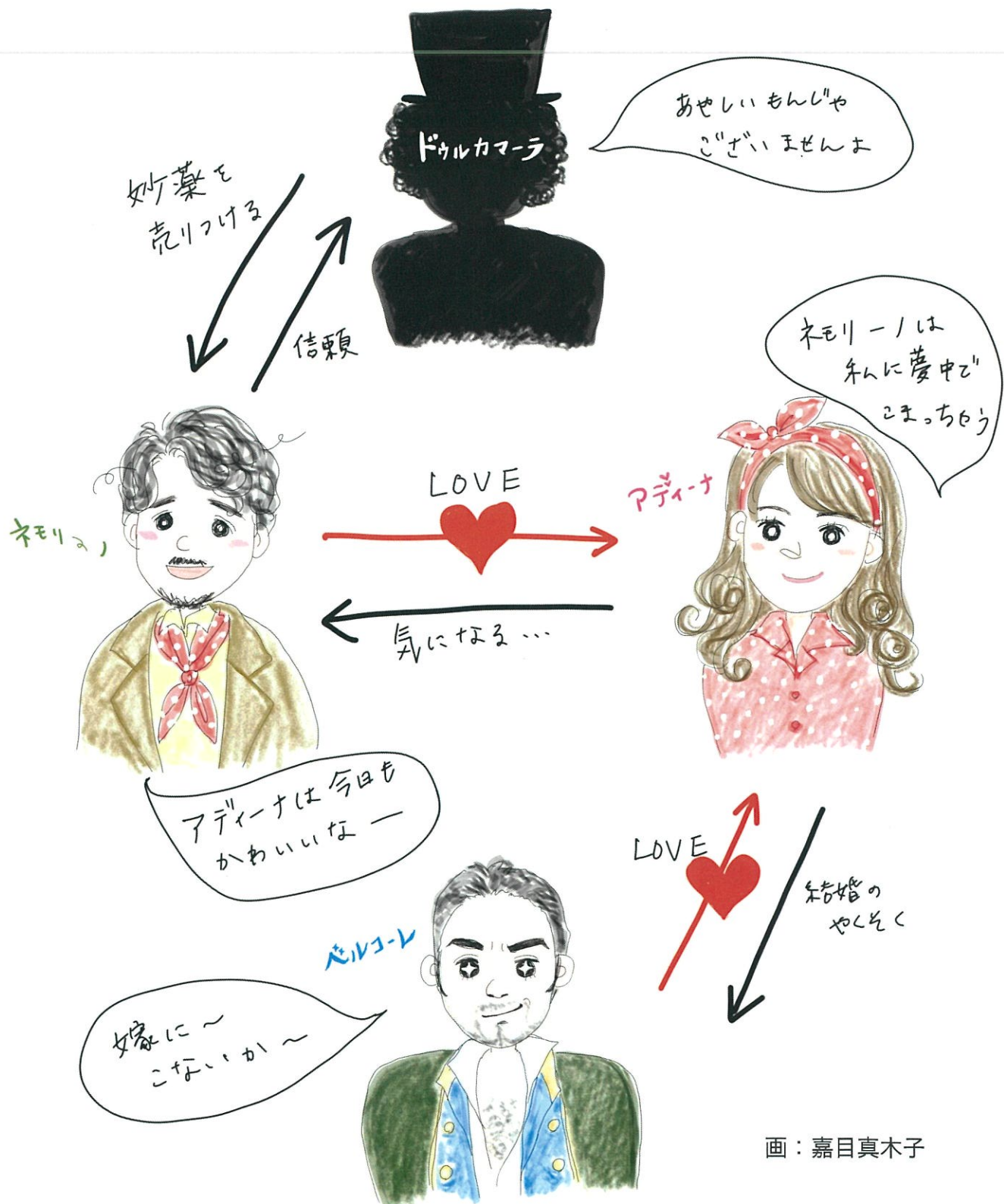
「これこそ奇跡の薬の効果!!!」...どこまで天然なんだよ、ネモリーノ。

女性たちに連れて行かれるネモリーノを離れたところから見ていたアディーナ。ま、まさか薬の効果!?とドゥルカマーラもびっくりしています。アディーナは彼に事の経緯を尋ねます。そして薬を得るために軍隊に入隊したことを聞き、心を打たれます。そんな彼女をみたドゥルカマーラはもう一儲け...いやいや、彼女を放っておけないとアディーナにも“愛の妙薬”を勧めます。しかし、アディーナ。「薬は必要ないわ、私自身が妙薬なんだもの」とドゥルカマーラをあしらってしまいます。

一方のネモリーノ。女性たちに連れて行かれる時、アディーナをみていました。連れて行かれる自分に涙を流していたアディーナにたいし、彼は愛を確信します。そこにアディーナがやってきて、軍隊の契約書を差し出します。ベルコーレから買い戻してきたと。彼女からの愛を告げられると思っていたネモリーノは「もう戦地に行って死んでやる!」と投げやりになります。しかしアディーナは全てはあなたへの愛のためよ、と彼をなだめ、ついにこの遠回りな恋が成就し、二人は結ばれます。

ベルコーレは悔しがりますが、男らしくきっぱり諦めます。ドゥルカマーラは「これこそ愛の妙薬の力だ!」と自信満々に次の村への旅立ちます。村全体が幸せムードでめでたしめでたし!!

# 相関図



画：嘉目真木子